

第4回毛呂山町小・中学校のあり方検討委員会 会議録			
日 時	令和5年1月31日(火) 13:30~14:40	場 所	毛呂山町中央公民館視聴覚室
出席者	委員14名(欠席10名 途中参加1名) 傍聴者5名		
毛呂山町	高沢教育長 石田教育総務課長 土屋学校教育課長 内野教育総務課副課長 三浦学校教育課副課長 新井学校教育課指導主事 岩田教育総務課管理係長 伊藤教育総務課管理係主事		
発言者	内 容		
事務局	<p>それでは皆様お待たせいたしました。本日10名の委員から欠席のご連絡をいただいております。お一方まだお見えになっておりませんが、毛呂山町小・中学校のあり方検討委員会設置要綱第6条第2項に基づき、過半数に達していますので、会議が成立することを報告いたします。</p> <p>ただいまから第4回毛呂山町小・中学校のあり方検討委員会を開催いたします。始めに事務局より資料の確認をさせていただきます。</p>		
事務局	<p>はい、ではまず本日卓上配布した資料から確認をさせてください。右上に資料2とあります A4の横版二枚つづり。右上1ヶ所留めの資料でございます。</p> <p>続きまして、事前に郵送いたしました資料の確認です。まず本日の会議の次第 A4一枚それと資料1 令和4年度毛呂山町小・中学校のあり方検討委員会のまとめ(案)。こちら2点となります。</p> <p>お手元にお持ちでない方がいらっしゃいましたら、事務局までお申し出願います。よろしいでしょうか、ありがとうございます。</p>		
事務局	<p>それでは、資料の一枚目、本日の会議次第をご覧ください。この次第により会議を進めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>次第の2でございます。挨拶を毛呂山町教育委員会教育長より申し上げます。</p>		
教育長	<p>はい。あり方検討委員会の委員の皆様、本日は出席ありがとうございます。1月31日ですけれども、また本年もどうぞよろしくお願いいたします。皆様におかれましてはご多用の中、第4回毛呂山町小・中学校のあり方検討委員会にご出席をいただきましてありがとうございます。委員の皆様には日頃より本町の小・中学校の教育活動を始め、幼児教育、生涯学習、スポー</p>		

ツ振興、毛呂山町の教育の様々な場面の推進にご理解とご協力をいただいておりますことに心より感謝申し上げます。誠にありがとうございます。

さて、早いもので本日の検討委員会、第4回目で予定された最終回となりました。第1回から3回まで検討委員会では教育委員会からの資料提示、あるいは委員の皆様からの貴重な資料提示をいただき、それぞれの立場から貴重な考えやご意見をいただくことが出来ました。ご案内の通り、この検討委員会の基盤にあるものは、現在町で推進しております、未来を拓く人づくり（小中一貫教育）プロジェクト基本方針でございます。何回もこの言葉を言わせてもらってるんですけども、毛呂山の未来を担う子どもたちの育成に、学校・家庭・地域が互いに連携し、小中の9ヶ年を連続性のある、創意を活かした教育課程で、子どもたちの育成、そして、この取り組みが毛呂山中学校区と川角中学校区、それぞれ小中3校で展開されております。

実は先週の金曜日27日、毛呂山中学校区の小中合同研修、これは先生方の研修ですが、それと毛呂山小学校の6年生2クラスの児童が中学校での学習体験をするという行事がございました。こちらの方を私達も見させていただきました。6年生2クラスが3時間目4時間目の授業を行い、給食・清掃・昼休み、そして5時間目の授業は中学校の教員による英語と社会科の授業を受けていただきました。

小学生が、ちょっと緊張しながら勉強してる様子もあったのですが、中学生が子どもたち6年生をうまくリードして、本当に6年生も不安なく生活している様子を見ることができました。

また先生方の方も9ヶ年の系統的な指導内容の合同研修、学習指導ですとかそれから生活ですとか、あるいは行事ですとか、そのような部会にわかれて本年度の活動を取りまとめておりました。

川角中学校の方でも小中一斉の合同研修ですとか、あるいは一斉下校あるいは特別支援学級の交流ですとか、様々な場面で小中学校の交流が進んでおります。

私も現場にいたときには様々な行事の取り組みをやらせてもらったんですけども、垣根があったという言い方はちょっと変かもしれませんが、低い垣根があってそれが段々と近い将来はこの垣根もなくなって、小中学校の9年間で交流を進めながら子どもたちの育成ができるのは、大変嬉しいことかなと思います。

毛呂山中学校区ではまた泉野小学校を交えて、様々な取り組みもまたこの後続くということですのでぜひ期待をしたいと思います。

様々な取り組みの成果をぜひ町民の皆様にも発信しながら、今後もこの活動をぜひ続けていきたいと思っております。

さて、先ほど申した通り、今回の委員会をもちまして当初予定されていた

	<p>委員会は終了となります。委員の皆様から、先ほど申した通り、様々なご意見やご質問いただきまして本当にありがとうございました。小中一貫教育のさらなる推進に毛呂山町の将来を担う児童生徒の教育に望ましい学習施設を整備するための貴重な意見を受け、これからの町の小・中学校の編成計画案をこちらで作成してまいりたいと思います。</p> <p>現在、新型コロナウイルス感染症も収束には至っておりませんが、段々と下火になってきているのかなと思います。国では、先ですけど、5月8日をめどに5類への引き下げを検討しているとのことですが、まだまだ感染状況は予断を許しませんので皆さんも是非体調管理にお気をつけいただければと思います。</p> <p>また、傍聴の方々も熱心に傍聴いただき大変ありがとうございます。本日もよろしく申し上げます。</p> <p>本日は限られた時間の中の協議になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして委員長ご挨拶をお願いいたします。</p>
委員長	<p>こんにちは。寒い中ご参加いただきましてありがとうございます。</p> <p>今日は皆様のご意見が載せられたこの冊子、検討委員会のまとめについての検討となります。いろいろご意見等あると思います。よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>それではこれより次第の3の議題に入ります。議事の進行につきましては設置要綱第5条第3項により委員長が議長とさせていただきます。</p> <p>なお、以後の事務局の説明につきましては、着座にての説明をお許しいただきます。それでは議長よろしく申し上げます。</p>
委員長	<p>それではこれから1、毛呂山町における小・中学校のあり方についてを議題とします。事務局の方から説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>～資料説明～</p>
委員長	<p>ありがとうございました。ただいまの事務局の説明に対しまして、何かありましたら挙手にてお願いいたします。</p>

A 委員	じゃあすいません。
委員長	はい、A さんどうぞ。
A 委員	川角の小中のスクールバスとなっていますけども、元々は毛呂山小中の方がですね、箕和田湖の方とか、そういう話はあったんですけど、ちょっと川角がスクールバスの対象になる。その所は大体どの辺なのかなど。ちょっと今気になったので、教えていただきたいと思います。
事務局	はい、お答えいたします。今回ご提示しました金額の方は、バス 1 台あたり 30 人乗りぐらいの中型のバスということでお出ししたものです。どの距離の範囲がスクールバスの対象になるかというのは現在のところまだお話しできる段階ではないと考えています。
委員長	よろしいですか。
A 委員	はい。
委員長	はい、B 委員どうぞ。
B 委員	<p>説明どうもありがとうございました。以前にいただいた資料の 1 ページのところで、ちょっと生きる力というふうに説明でありましたけれども、ちょっと生きる力ってね、わからないんですよ、よく。どういう、だから何て言うかな、人と競争して生き抜いていく力なのか、将来にわたって未来を切り開いていく生きる力なのか。学校の中で生きる力ってあるんですが、この委員さんの中にこういうふうに言われても多分具体化しにくいですね。</p> <p>それでなおかつ私にはあまりその生きる力と一貫教育関係があるというふうに結論できないんですが、生きる力を育むんだらば、いろいろ細かい指導ができる小規模校の方がいいのではないかと、という感覚で。どうもこの生きる力ということを具体的な説明がなくて使われてしまうと、わかりませんねと。正直な感想なんですけど、そこら辺いかがですか。</p>
委員長	はい、すいません、最初の 1 ページの上から 8 行目の生きる力というふうなことを指しておっしゃってるんでしょうか、すいません。
B 委員	はい。

委員長	はい、じゃあ、それについてお願いいたします。
事務局	<p>私の方からお答えさせていただきます。生きる力というところではあるんですが、学校において生きる力というところで学校の教員としては、子どもたちが将来、社会に出て生きていく力、これをまとめていわゆる国の方からは学習指導要領というような形をとっているもの全て、これを生きる力と捉えております。</p> <p>その中でいろいろなところで使われるんですが、基礎学力であったりとか、また社会性があつたりとか学校では様々なものを学んでいますので、これは学習指導要領にのっとって、学校の方で教育課程を編成して育てている力となっております。</p> <p>こういったところで、プロジェクト基本方針こちらの方を策定して、第2回目で私の方で説明させていただいたように、児童生徒数が減っている、コミュニケーション能力の育成、こういったところというのがすごく今後難しいところもあるというようなところで、社会性を子どもたちに育むためにより多くの交流を、子ども同士、大人と子ども、大人同士というところで育んでいきたいと捉えておりますので、ご理解いただければと思います。</p>
委員長	ありがとうございます。よろしいですか。
B 委員	<p>今のおっしゃり方だと、現行の学習指導要領で生きる力だったんですね。小中一貫教育に変えるという必然性が私には感じられない。だから少なくとも変えるというならば、生きる力、現行の学習体制ではここが不満だったんですと。だからその欠点が上がってないから読む論拠がわからない。よろしいですか。指導要領はまだ変わっておりませんよね。ですから再答弁をお願いいたします。</p>
委員長	すいません、お願いします。
事務局	<p>はい、現行の学習指導要領につきましては文科省の方から説明がありました。そういった中でリーフレットにも出ているんですが、四つの鳥が書かれています。幼稚園保育園、小学校、中学校、高等学校というようなところの連続性を持って、やっぱり子どもたちに力を身につけていくことは必要であろうというような目的も含まれています。</p> <p>こういった意味も含めまして、その小中一貫だけではないんですが、やはり連続性を持ってやっていくことが今後重要であると捉えております。そういった意味でこの小中一貫教育で変わるというわけではなく、より教育</p>

	<p>を充実するために小中一貫教育というような取り組みをしていこうという ようなところで捉えて、基本方針というようなことで出させていただいて おりますので、ご理解賜ればと思います。</p>
B 委員	<p>そこが出てないじゃないですか、ちゃんと。</p>
委員長	<p>すいません、マイクをお願いします。</p>
B 委員	<p>だから、その根拠がちゃんと出てなくて、ぽっと出されてもわかりにくい ですねってことですよね。だからそういう、なんて言うのかな、思考の 飛躍がないようにしていただかないと。公開の会議ですので、やっぱりちょ っとまずいんじゃないかなという感じがしましたね。以上です。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。他にはいかがでしょう。はい、C 委員お願いま します。</p>
C 委員	<p>ありがとうございます。二つあるんですけど、今 B 委員がおっしゃって いたことの中にすごいヒントが隠れてるなと思ったんですけど、B 委員が、 小中一貫校なのか、小規模校なのかっていうお話をされたんですね。</p> <p>私この議論をわかりにくくしてたのは、その小中が残るっていうことは、 我々がイメージしてる小学校中学校っていうのは4クラスとか5クラスと かあって、中学校になれば、5クラス以上、10クラスぐらいあるものが小 学校中学校っていう一般の人がイメージする学校なんですよね。なんだけ ど、毛呂山町は小規模校になっちゃうよっていう話なんですよ。</p> <p>要するに、この議論を広報とか外に出したときに、今までの小学校・中学 校がいいですか、それとも小中一貫校がいいですかっていう議論は実は成 立しないということ、きちんと表明しないといけないのかなと思ったん ですね。</p> <p>要するに、今までの、このままいくと、普通の小学校・中学校、皆さんど の方が、どれを普通と想像してるかわかりませんが、私、少なくとも団塊ジ ュニア世代が今子育てをしていると考えたら、団塊ジュニア世代が想像し ている小学校・中学校というものではない、小規模な小学校・中学校になる。 これにするのがいいのか、小中一貫校にするのがいいのか、という議論じゃ ないかなと、私も今、B 委員に言われてそれに気がついたんですね。なるほ ど、この議論がないと普通、小中一貫校っていうのはすごく特別なもので、 「いやいや今までの小学校と中学校でいいよ」っていう、もし意見を聞いた としても、議論になってしまう。</p>

だから、これをきちっと、多分教育委員会として小中学校を、要するに、このままいくと小規模校になると。で、B委員の論旨にもあった通り、その小規模なことが悪いって言うわけじゃないわけですよ。ここの委員の方々が書いている中にもあったけど、行き届くとか、指導ができるんじゃないかっていう話もある。ただ、その中で教員も減りますよっていう話もあるんですよ。教員が減ったら本当に行き届く指導ができるのか、本当に生徒の面倒見られるのか。あと、親御さんたちがかえって心配してるのは、いじめが出るんじゃないか、クラス替えがないのは嫌だと子どもたちが言っているみたいな話もあって、小規模校になっちゃうのか、小中一貫校になるのか、どちらかという議論ができれば、多分そのあたりが町民の中でも実体化していくというか。今後、その親御さんがお子さんをこの町で育てていくにあたって、いやどっちの小中の状態がいいのかという。

だから、どっちもある意味では生きる力は育成できると思いますけど、ただその小中一貫になったときと、小規模校だったときの行く先というのは多分違うはずで、その行く先も含めた生きる力っていうのを表明した方が、それは相手方を否定することにはなっちゃうかもしれないんですけど、でも小規模でやってる学校もあるじゃないかという意見も出ました。

だから、どっちが悪い、どっちがいいって言う話ではないと思うんですけど、この対極性っていうのも明示しないと、多分、普通の小中学校がいいのか、小中一貫校がいいのかって議論してしまうと非常に議論がおかしなことになるというのを感じましたので、何かこの辺の明確な、広報に書く際に、もう少しこれを明確に親御さんに伝えていく必要があるんだろうなど。そこは勘違いしてしまうと、多分議論がとんでもない、要するに、「元に戻りたい」とか、正常性バイアスがかかるので、「元のままがいいでしょう」と。「小中一貫なんて、わけわかんないことをやるよりも」ってなっちゃうと思うので、この小規模なのか、小中一貫なのか。という話にするのがいいかなというの個人的に感じました。これ一つ目。これは私の感想に近いんですけど、もし何か答えていただけるのであればそれで。

もう一つが資料2が配られたんですけど、各委員さんの書いてた中で、16番の方の意見に書いてある、ちょうど10ページ目ですよ、10ページの一番最初の行。公募委員には財政的な資料を提供されていないということが書かれていたんですね。この方はさらにもう小中6校を全部統合して義務教育学校にするべきじゃないかと非常に面白いことも書かれていたんですけど、この財政的な資料提供されていないというのに、ということに対してこの資料2は提供されたかもしれないんですが、これが単純にプラスになる、要するに、財政にとってはマイナスになるかマイナスになるって言う話なのか。それとも例えばこれ小中一貫したら他の方で光熱費とかも統

	<p>合できるんだからマイナスになる部分もあるみたいなことを書かれてた委員さんもいたと思うんですけど、その小中一貫するとこれぐらい経費が浮きますと。その浮いた経費でこれができますとかね。</p> <p>だから、1200万ずつバスがかかるんだけど、これぐらい実は小中一貫をしたときに、経費的にはマイナスの部分が出るから、ここで補う。</p> <p>要するに、これってなんかすごい負担が増えるように見えてしまって。中には利用者から徴収すべきだという意見もあったんですけど「え、じゃあバス、遠くに住んだだけでバス使わなきゃいけないの、しかもそのバスを毎日100円とか200円も払わなきゃいけないの」って思っちゃう親御さんがいたら、それは反対って話になっちゃうと思うんで。これ予算的にどう小中一貫すると削減されて、それをプラスでどう使えるのかって話になんないと、多分この16番の方が書いてる財政的な資料というふうには、解釈ができないんじゃないかなと私は思ったんですけど。私も今解釈できてない。じゃあ、これが2億5800万円かかる1200万円。「え、これって小中一貫したら金かかってんじゃん」って話になったときに、「いや今のままでいいよ」って話になっちゃうと思うんですね。</p> <p>だから、私は小中一貫に非常に賛成ですし、施設一体型でやるべきだと思っってはいますけど。こういうところで親御さんが見誤ってしまったときに、町の意見として、例えばこれで議会にかけましようとか、これで、例えば町長選挙が行われるみたいな、わかんないですけど、なったときに非常に違うバイアスがかかった状態で意見が進んでいっちゃうのは、ここをせっかくやったのについていうのもあるんですけど、と思っているんですけど、そのあたりはいかがでしょうか。長くてすいません。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。お願いします。</p>
事務局	<p>ご意見ありがとうございます。今のC委員さんのご意見というのは、総論として、いろいろ行政的な部分であるとか、そういったところまで総合的に考えるとどうなるんですかっていうところも含んでると思うんですけども、まず、こちらの皆さんのご意見の方を拝見していただいたと思うんですが、どなたもまずは児童生徒、お子さんのことを主として考えてくださってる方々がほとんどなのかなというふうに、私こちらのご意見をお預かりして思いました。</p> <p>ですので、こういったご意見の方を受けとめて、そしてもちろん今、C委員がおっしゃったような内容の方も当然行政としては考えていかなければならないところなのですけども、まずこういった意見がたくさん挙がってきたということを受けとめつつ、今後の計画の方を考えていかなければ</p>

	ならないというふうに感じておるところです。以上です。
委員長	よろしいですか。
C 委員	よろしくはないですけど、その反論にとどまるということですね。はい、しょうがないと思います。
委員長	そうですね、今ここでやっても数字として出てくるわけではないですから。そんなことがあるということをお伝えしておくだけでよろしいでしょうか。
C 委員	はい。
委員長	すいません。じゃあ、事務局の方、そこら辺のことも含めてお考えいただければと思います。よろしくお願いします。 あと何かございますか。はい、B 委員どうぞ。
B 委員	皆さんから意見をいろいろ出されてる中で疑問が出てるんですが、多分、すいませんが、この回が終わるともう答えていただく場がないのかなって感じがしてるんですね。 ですから、財政的な面も少しは出たんですけども、いろんな不安をお持ちの方がいて、通学バスには出たんですけども、だから今後その、このまま最終方針ですってということになると、せっかく意見を書いたんですが、あまり有効な回答を得られませんでしたってということで進んでしまう可能性を、私なんか漠然と、高いなという感じがしたんですが、そこら辺はいかがお考えですか。以上です。
委員長	大丈夫ですか。はい、お願いします。
事務局	ご質問ありがとうございます。今回ですね、いろんな意見をいただきました。事務局としてはやはり今までやってきたところに対してですね、反省しなくちゃいけないこともあろうかと思えます。 今後のことについてですね、このまとめの方にあるんですけど、あり方検討委員会以降というところで、今後計画案を策定する予定です。その計画案には今回いろんな様々なご意見をいただきましたので、それに対してお答えできるような計画案にできたらと思っております。 ただ、いろいろ賛成反対いろいろありますし、いろんな考えがありますの

	<p>でそれを全部くみ取ることではできないことだけはご了承くださいと思います。その後いろいろ説明会ですとかパブコメ等も行う予定ですので、そのときに、まだ疑問点等ご意見等ありましたらそこでいただけたらと考えております。以上です。</p>
委員長	<p>B 委員いかがでしょうか。</p>
B 委員	<p>だから、大体パブコメとか一旦そういうことにして、あとは見てくださって、今日はこれで解散っていうことになっちゃうんでしょうねっていう、確認をしたかっただけなんですけどね。スケジュール的にそうしかないのでかなと思いますが、はい。</p>
委員長	<p>はい、今の B 委員のおっしゃる通り、特になければこれで、みたいな形になるんですけども。</p> <p>その前にやっぱり、最後の回なので、こういうことは言っておきたいみたいなことがありましたら、ぜひ心残りがないように述べていただければと思います。はい、C 委員さんどうぞ。</p>
C 委員	<p>すいません、私と B さんばかりになっちゃうんですが。</p> <p>この、あり方委員会に私参加してよかったなと思ったのですね、感想ではなくて。この間ちょっと、とある方から、この委員会で聞いたんですけど、川中の話で、川小って2クラスあるんですよ。光山は1クラスなわけですよ。中学校で3クラスになるわけじゃないですか。シャッフルされてることになるんですけど、私も自分が小中、小学校・中学校がほぼ一緒に、中学校に外部の人がちょっと入ってくるみたいな、ちょっと特殊な学校にいたんですけど、ほぼ内部の人間が上がってきて、200人ぐらい内部の人間が上がりつつ、50人ぐらいが外から入ってくる。そこで全然意識したことはなかったし、その川中も川小2組に対して光山1つっていうのが上がってくるっていうのも全く意識したことはなかったんですけど。</p> <p>この会でお話を聞いたら、やっぱりその光山の子たちは2クラスいる川小に対して、すごい引け目を持って話をしてたんですね。要するに、自分たちが代表委員になっていいのかとか、自分たちがそのクラブ活動とか部活動で積極的に参加していいのか。だって、最終的に2対1で、あっちの方が仲がいいみたいなものがあるらしいと。毛呂小と泉野は分かりませんが、多分その2クラスと1クラスが一緒になるみたいなところって、そういうギャップがあるんだってことを初めて知ったんですね、私は。</p> <p>で、今後少子化が進んでいくと1クラス1クラスになって、それが2クラ</p>

スになるってなれば、その問題っていうのは、もちろん起きなくはなるんですけど、少なくとも、もう少しの間、2クラスで1クラスが一緒になるっていうのは、この毛呂山町の中では起きていくギャップなんですね。この間も何か学年だよりみたいな見たら、その光山出身の子が「私は頑張れた」みたいな。「少数派の光山小だけど、川小の人たちにも負けずと頑張った」みたいなことが書いてあって、そういう観点というか概念があるんだなっていうことに気づいたんですね。

そうすると、ここの中でどなたか委員さん、何名かの方が書いてあるけど、小学校を統合して、小学校をまず一緒にしちゃおうと。中学はまた別でみたいな案もあったんですけど、それもいいなと思ったわけですね。その小学校が一つの小学校になって、中学校に上がったときのギャップがなくなればいいなと。

でもそれって、それが毛呂小だったら、隣が毛呂中だからやっぱり小中一貫で一緒にしちゃった方が早いみたいなことを、その頭の中で組み立てていくとそうなる。川小も光山と1校の小学校にしようってなったときに、いやその間に川中があるよねって話になると、それでやっぱり1校いいんじゃないかっていう気持ちになるっていうのもあって、その中、中1の段階での必要のないギャップ、中1ギャップとはまた違う話かもしれないんですけど、毛呂山町の中で起きるそういう劣等感とか、自己肯定感を苛んでしまう、というか育ててしまうものっていうのは解消されるべきかなと思ったんですね。

その話を聞いたとき私ははっとして、やっぱりこういう場でそういう教育の話が聞けるとか、親としてですけど、私はやっぱりその話を、子どもたちとして、本当に平等かななんて話をすると彼らの意見をいろいろ聞いてたんですけど。何かそういうことも含めてやっぱり話ができる、できたのは良かったし、今後そういう問題でも、それがやっぱり児童とか親御さんの意見を聞くべきだっていうところがかなというふうにはちょっと感じている。

こういう問題、問題ですよ本人たちからしたら。少数派からしたら非常に中学校が怖いとか、中学生になったら嫌になっちゃうとか、少数派になっちゃうってのは、ビクビクしてるのかなとかって思うと。

そこは小中一貫だと解消できるのかなみたいなこと、だからこういう何か多角的な意見が欲しいですよ。小中一貫は予算だとか少子化だとかそういう何か非常に外部的な話じゃなくて、内部的な問題をいろいろ小規模校というふうになってもそれはそれでいいんですけど。何かその話を聞いて、もうまだ複数年その2年2組1組が一緒になるってのが続くのであれば、やっぱり必要な、早めにそれを解消してあげるべきものなのかなというのにはちょっと思いました。

<p>委員長</p>	<p>すいません質問ではないんですけど、そんな感じです。</p> <p>はい、ありがとうございました。</p> <p>できれば、3回目までの会議の中でそういうふうな話をもっともっと出されると、意見を書く前に私達の認識も違ってくると思いましたが、そこら辺の話ができなかったのはとても残念ですけども、今日話していただいて、ありがとうございました。</p> <p>すいません、もうないようでしたら、いいですかね。この議題についてなければ、この議題について終わりにしたいのですが、よろしいでしょうか。あ、はいどうぞ。</p>
<p>D 委員</p>	<p>皆さんお疲れ様でございます。</p> <p>先日、先ほど教育長からもご案内がありましたが、中学校区で小学6年生が中学校の校舎に行って活動するという、授業にしたら3時間程度、給食と遊びの時間というようなことでやっていたところに、私もちょっとお邪魔させていただいて見学をしてまいりました。この今の協議の内容とはちょっとずれるかもしれませんがご紹介させていただければと思います。</p> <p>授業に関しては、3時間4時間目は小学生が小学生の授業をするために、中学生が少しお手伝いをしていただきながらやっていたのかなというふうに見受けられましたが、その後の給食の時間から、私、突入していったような状態だったので、中学生が6人、7人ぐらいのグループで配膳のお手伝いをして、食事は6年生のクラスごとに食べて、その後の片付けのときにはまた違う中学生が来て、そこでお手伝いをしてきて、どこから持ってきたらいいのか、どこに片付けたらいいのか、というふうに教えてくれていました。</p> <p>それをしていた中学生の姿は、先生から指示があってやっていた、というふうには私の方には見えませんでした。事前に資料があったかもしれませんが、子ども同士が関わっていく中で、今、この子に対して何が必要かなっているのは子ども自身が考えてやっていたように見えたので、すごく心強く感じましたし、これが小中一貫の、ある一部分の姿かもしれませんが、もしかしたらこういった将来像とか見えてくる機会が増えていくのかなというふうに思いました。</p> <p>その後の、給食の後の掃除なんですけど、無言清掃という形でやってくれていました。床を乾拭きで全部拭いていくんですが、私達の頃の大掃除で、床にワックスかけて拭いていたというような印象が自分の中にもあるんですが、子どもたちは真剣に床を掃除していて、それこそ本当に静かに、掃除をしていてくれて、こんなに綺麗な中学校を見たのはすごく久しぶりだった</p>

	<p>ていうぐらい、気持ちのいい環境の中で、子どもたちは清掃を嫌がることなくやってくれていたのかな、それに中学生の声がけも対応も良かったのかなというふうに思いました。</p> <p>その後の遊びの時間なんですけど、中学生と6年生と一緒に大縄跳びをしていました。ただ、私達会議中だったので、ちょっと窓の向こう側の姿が見えなかったんですが、小学生がチャイムが鳴って教室に帰るとき、ものすごく楽しそうな表情で、私達の会議してる部屋の脇を走って教室に戻っていた姿を見ると、一緒に遊んだっていうことの充実感と、中学生に対するいろいろな抵抗っていうようなものが、おそらく打ち解けていった瞬間が過ぎたのではないかなっていうふうに、いい形で私はその時間を受けとめました。</p> <p>中学生は、小学生が帰るときもちゃんと道案内をしてくれたのか、昇降口の方に来てくれる中学生もいたようですし、小学生も「楽しかった」といって、「中学校に来るのがこれから楽しみ」といっているような声があったっていうような話も聞きました。ぜひ、そういったことが毎日の連続の中でこの今検討している小中あり方検討委員会ですけど、小中一貫教育というところから子どもたちの未来にいろんな経験が今以上に増えていったら一番いいのかなっていうふうに、私の方にはすごくいい意味で、充実した時間をもらったので、少しご報告をさせていただければと思ひまして、マイク取らせていただきました。以上です。</p>
委員長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>学校の中の様子が手に取るようにわかって、私達もよかったなと思います。ありがとうございます。</p> <p>はい、A委員どうぞ。</p>
A委員	<p>先ほど述べられた生きる力っていうのはですね、20数年前に学習指導要領の大改訂っていうのがあったんですね、30%学習内容を削るっていう。国民の大きな議論がありまして、そのときに私はこういう教育はおかしいと、やっぱり知識重視であるべきだという思いでした。</p> <p>結局20年あけたら意外とこの学習指導要領の生きる力、総合的な実践的なコミュニケーション能力の育成。この20年間意外とよかったかなと、思える自分になりました。</p> <p>それで、今回いわゆるシンポジウムというか推進っていうかですね、結局検討委員会ですから、あり方、いわゆるこれは、最後は各委員の意見でまとめてます。私たちはそれでいいのかなと。言いたいことは言った。こういう考えは言えた。または聞いた。その中で心の中で考える人もいるかもしれな</p>

	<p>い。</p> <p>ただですね、これはあくまでも検討委員会です。結論を出すわけではなく、この後また大きなところでまとめていただいて、それがまた広聴会みたいな形で最終的に決めるということで。そのたたき台ということなのでこういう意見、多様な意見が出たっていうことが、私としては一番良かったかなって。</p> <p>ただ本当にですね、ここに出ていい会でした。私が会社辞めて失業者になった今、会社員これで辞めますけど、今失業者です。勤めておりません。その中でこうやってね、この半年間に関われて本当よかった。皆さん本当に真面目に考えているんですよ、私なんかより全然。教育、考えているなということを再認識して、本当に感想になってしまいましたけど、本当によかったなと思ってます。以上です。</p>
委員長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>ではこれでよろしいですか。はい、わかりました。</p> <p>では議題の毛呂山町の小・中学校のあり方についての審議は以上です。議長の座を降ろさせていただきます。ご協力ありがとうございました。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。今回であり方検討委員会は終了となります。お時間をいただきまして、教育長からお礼の言葉を申し上げます。</p>
教育長	<p>では失礼いたします。</p> <p>4回にわたる検討委員会にご尽力いただいて、本当にありがとうございました。</p> <p>私達の視点からなかなか見えないもの、そして地域の方や、それから保護者の視点で物を見た場合、感覚やそれから視点も違うので私達にとってみれば本当に貴重なご意見をいただく機会になりました。</p> <p>ちょっとお礼とは離れてしまうのですが、先ほど委員の方から2小学校が統合したときの、数の比率によってのお話がありました。</p> <p>実は私も隣の市町なんですけれども、大きな小学校と小さな小学校から来る中学校の校長を務めさせていただきました。極端に言うと35人の中に小さい学校の生徒は、5クラスあるんですけども5人いるかな、いないかな。5人とすると、例えば男子女子であると4対1、もしかすると5対0で、5人と0で女子がいないクラスもあるかなと、そういう学校を経験したんですけども、全然子どもたちの違和感はございませんでした。1年生になったら皆さん1年生なんですね。</p> <p>ですからどこの出身っていうのはあったとしても、中学校に入ったら、も</p>

	<p>う中学校の1年生という意識で学習や部活や学校行事に一生懸命取り組んでました。また子どもたちの方も、そういう見方っていうのはありません。子どもたちは子どもたちの文化があって、仲間同士の意識があって、同じ学校の学年の生徒一同という意識の方が強いかなというふうに思いました。</p> <p>そもそも私達教職員の方もそういう見方はしないというよりも、そういう見方っていうものが、そもそも現実的にはないという認識で教育にあたっておりました。ぜひ、子どもたちのそういう純粋な気持ちっていうのは大切にして、私達も行政の方で支援にあたっていきたいと思えます。</p> <p>ちょっとすいません、余計なことを言いました。</p> <p>4回を通して先ほど申した通り、見えなかった部分もかなり見えてきました。今後、策定案を作成しながら、また委員の皆さん、また町民の皆さんにご意見を伺う機会を設けて、より良いものにしていきたいと思えます。</p> <p>本当に社会情勢が日々変化していく中で、10年後20年後によりよい教育環境を提供するというのが私達の仕事なんですけども、こればかりはどうなるかわかりませんが、十分将来を予見して子どもたちに後悔のないような、そういう施設を提供しなきゃいけないという使命は今後も持ち続けていきたいと思えます。</p> <p>ご指摘いただいた様々な事項について、事務局内で十分、情報収集や分析、それから検討を踏まえて策定案を作成してまいりたいと思えます。貴重なご意見を本当にありがとうございました。</p> <p>また、4回にわたる傍聴の方、本当にありがとうございました。また今後ともぜひよろしくお願いをしたいと思います。</p> <p>お礼にはなりませんけども、この言葉に代えさせて4回を終了させていただければと思えます。本当にありがとうございました。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、委員長からも一言お願いいたします。</p>
委員長	<p>半年間にわたる委員会へのご参加ありがとうございました。</p> <p>私達の3回までの話し合った意見、それを踏まえて、今回まとめの冊子にまとめられたわけです。ですから、その次の計画に移っていくと思うんですけども、私達の出した意見がきちんと届き、そしてそれが活かされることをやはり希望しています。いろいろな意見が出て参考になって、とても私達も参加してよかったなというふうに思えます。</p> <p>いろいろありがとうございました。ご協力ありがとうございました。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p>

副委員長	<p>それでは、閉会の言葉を副委員長にお願いいたします。</p> <p>これで4回分の委員会が終わりました。進行に関しましてはちょっと不慣れな点もありまして、皆さんにご迷惑をおかけしたかなと思っておりますが、私たちなりに精一杯進めさせていただきました。</p> <p>一保護者としても実際行政の方々がどういうことを考えて苦勞されているのかということもよくわかりましたし、なるべく、僕らも行政に協力をしながら自分たちの子どもがよりよい教育の環境を得られて、生きる力というお話ありましたけれども、立派な人間になってほしいなど。そのためのサポートを一人の親としてしっかりと努めていきたいなというふうに気持ちを新たにしたところです。</p> <p>あまり挨拶が長くなってはいけませんので、これにて終わりにしたいと思います。</p> <p>では、毛呂山町小・中学校のあり方検討委員会、これにて閉会とさせていただきます。皆さん、ご協力どうもありがとうございました。</p>
------	--